奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和三年一月度　入選句（投稿総数千九百十二句・一般投句数五百五十四句）

選者　田中　青志

特選

閉店の一行の修羅十二月　東京都世田谷区　関戸　信治

閉店の一行の修羅、何とも重いことばです。こんな時代でなかつたなればの但し書きはなく、思い掛けない事態との遭遇に阿修羅の格闘の末の閉店宣言の店主の心を思うと心が痛みます。名立たる老舗、人気店が店を閉めるニュースが跡を絶たない十二月でありました。この度閉店致しますの一行を書かねばならなかつた人たちの夢の跡の一行なのです。

米を研ぐ水の硬さや寒に入る　大垣市　新町　恵子

季節の移ろいを知るもさまざまですが、米を研ぐ日常的な所作にして寒に入るを感ずるもむべなるかなです。米を研ぐときの水の硬さは日頃水に触れていてこその感覚だと思います。やがて水温むに春を、心持よい水の冷たさに夏を、清冽な水の感覚に水の秋を知ることになるのだと思います。

離れ居て鴨は水輪を重ね合ふ　大垣市　末守　節子

鴛鴦に代表されるごとく水鳥たちの仲の睦まじさは誰もが感ずるところです。離れていても心が通じ合つているの証しが水輪の重なりにも見てとれるというのも、この人の日頃のくらしの優しさに通じているのかも知れません。離れて暮らさねばならぬ親子や家族たちも、この水輪のような愛情の絆で繋がつて生きているのだと思います。

秀逸

つつがなきけふのあかしの秋灯す　大垣市　清水　登美子

子のつくる鼻は人参雪だるま　揖斐郡揖斐川町　粟野　みねお

是といふ特技を持たず枇杷の花　不破郡垂井町　髙木　初枝

田作と云ふ大海の魚かな　大垣市　後藤　喜美男

信楽のたぬきの臍や冬ざるる　大垣市　髙木　歌佐

小さき子の手の平小さき雪達磨　大垣市　大杉　すみゑ

爪立ちて御札入れかふ年用意　大垣市　澤井　国造

着ぶくれて優先席の狭さかな　瑞穂市　谷　牛歩

ビル群のいまだ目覚めぬ寒さかな　神奈川県横浜市　龍野　博史

嘘して言いたき言葉見失う　埼玉県さいたま市　短夜の月

入選

固き芽に命を託す枯木立　大垣市　谷本龍馬

荒縄の痕残りたる干大根　大垣市　村田通夫

晦日蕎麦すすりて齢重ねけり　不破郡垂井町　安田さか江

短日や端折って済ます厨ごと　不破郡垂井町　中嶋笑子

金色の波のうねりや大旦　岐阜市　田中淳子

翔ぶ鳥にけさの雪山くっきりと　大垣市　尾関逸子

雪降るや十万石のわが街に　大垣市　娑婆

果たさねばならぬ約束返り花　養老郡養老町　田中紫香

冬の虹削られし山ひと跨ぎ　大垣市　佐竹余史美

撞く人の想ひつたはる除夜の鐘　不破郡垂井町　児玉信子

入選

白鳥来なにかいいことありさうな　安八郡神戸町　澤﨑和子

年明くる六度目となる年おんな　大垣市　山田千歌子

故郷の茶の木垣根の白い花　大垣市　吉田しず子

若水に茶筅の泡の香しく　大垣市　坪井克枝

庭隅に吹き寄せらるる落葉かな　大垣市　高瀬鈴子

干大根自在にしなひ夕日浴ぶ　大垣市　鶴田信子

年頭の一句を記す日記帳　兵庫県神戸市　岸下庄二

日向ぼこ一日一日と老ゆるかな　神奈川県川崎市　立野音思

十二月書き込み多きカレンダー　安八郡神戸町　高橋日出美

失念を恥じて柚子湯に浸かりけり　京都府京都市　石田吉之助

選者吟

過去よりも短き未来春を待つ　青志